

学んだこと、活かしていきたいこと

私は今回の被災地巡検で実際に自分の足を運び、様々な施設を見学したことで沢山のことに気付くことができた。

一つ目は震災遺構近くの街並みである。最初の見学先である大川小学校へ行く道中、橋をくぐった瞬間からさきほどまで続いていた住宅街が突然無くなったことを猛烈に覚えている。他にも荒浜小学校近くや請戸小学校の周りは震災前の資料にはあったはずの町が全くなく、地平線が見えるのではないかと感じてしまうほど辺りには人の気配もなく私たちに震災によって時間が止まってしまったのだと伝えているようだった。今回の見学先で私は初めて沢山の津波の映像を見たが町の家々が次々と簡単に流されていく様子を目の当たりにした。このようにして震災遺構の近くから町が消えたのだと知った。



↑この図は関上地区の被災前(左図)と被災後(右図)を比較した写真である。この写真からも分かる通り津波によって一つの町が無くなった。

二つ目は思い込みのせいで失われた命が沢山あることである。東日本大震災は想定を大きく超えてくる災害だった。大川小学校も海から 3.7km も離れていたが大きな津波がきて町を飲み込んでいた。この震災が起こるまでは津波によって川の水が逆流するという知識はまだ定着していなかったことから被害が拡大したそう。また請戸地区や双葉郡など様々な地域では「ここまでは津波は来ない。」「津波が来たとしてもそこまで被害はない。」などという思い込みから逃げないという選択をした人が亡くなったり、そういう人たちを説得しようとした人が亡くなったりしたという話を聞いて私はハッとした。近くに川があるというのに私の住んでいる地区には絶対に津波が来ないと考えていたからだ。地域の人たちが地震が起きるたびに「ここには津波来ないから建物の倒壊にだけ気をつけなさい。」と話しているのを幼い頃から聞いて育ってきたため全くそのことを疑ったことはなかったのである。私は今回の東日本大震災の話を聞いていなかったら、きっと新潟で大きな地震が起きて津波がくるとなっても避難することは絶対になかっただろう。しかし宗像さんがおっしゃっていたように逃げることは恥ずかしいことではないので結果として津波が来ようが来なかろうが津波が到達しそうになったら避難をしようと自分の意識が変わった。

三つ目は地震による災害は天災だけではなく人災もあるのだということである。原子力発電所の事故はもちろん、大川小学校も見方によっては人災となるだろう。私は帰宅後大川小学校のことが気になり自分なりに色々調べてみたことで色々分かったことがある。この小学校では二次避難場所をあらかじめ決めていなかったことに加え、必ず行わなければならない避難訓練を行わず市には行ったという嘘の報告書を提出していたそう。また震災当日大川小学校は避難場所に指定されていたため、地域の足腰の悪い高齢の方が避難してきて山への避難を断念したことが分かった。規則を守る、想像する、対策を練る、これだけでも結果は変わるのだろうと気付くことができた。そして改めて自分の身の回りを見てみると何一つ胸を張ってできていると言えるものがないことに気づいた。東日本大震災で起きた悔しい思いを我々次世代に伝えてくださっているのにこのままではその悔しい思いを繰り返すだけだと感じ想いを紡ぐ必要性をととても感じた。

今回の研修で最も衝撃だったことは人の命の脆さである。一つの行動の違いで人はすぐに死ぬのだと感じた。だからこそ必要なのは本当の意味で災害と向き合うことなのだろう。私がそれをするために今後していきたいことは三つある。

一つ目は沢山の人に今回の研修で学んだことを伝えるということだ。実際に帰宅後、家族に今回の研修で学んだことを伝えてみた。そうすると家族が東日本大震災で実際に何が起こっていたのか興味を持ち、各自で調べては調べた内容を共有するようになった。さらに、東日本大震災での教訓を活かすために「我が家の避難マニュアル」も現在作成中だ。私はこの家族内での流れを見て人に伝えることの大切さを学んだ。

二つ目は積極的に募金や寄付活動に参加することだ。東日本大震災に対する募金や寄付もそうだが、今特に火急で必要だと思う 28 日に起きたミャンマー中部の地震に対する募金や寄付を自分が行って、他の人へ協力を呼びかけていくことも大切だと思う。以前防災部として参加した募金を呼びかける活動をしたときに高校生が頑張っているからということで沢山の人が募金に協力してくれた経験があるので高校生のうちに沢山の募金や寄付活動に参加していきたい。



↑ 東日本大震災に対する寄付(左図) ミャンマー地震に対する募金(右図)

三つ目は社会に働きかけることだ。例えば新聞や SNS に自分の考えを投稿したり署名活動を行ったり何かしらの形で社会に働きかけたい。今主張したいことは津波による避難施設の少なさだ。今回の研修で想定外が命取りであることを学んだ。しかし新潟県内の津波用の避難施設を調べてみると私の住む地区の中に一つも避難所がなかった。他にも海に面しているのに避難所が一つもない場所が所々あり避難施設を増やす必要があるのではないかと考えた。このような主張や呼びかけを社会に対して行っていきたい。